

e-10) ヒメキマダラセセリ

i) 重要性

本種は、「環境庁報道発表資料 無脊椎動物(昆虫類、貝類、クモ類、甲殻類等)のレッドリストの見直しについて(環境庁 平成 12 年 4 月)」⁵⁾や「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に掲載されていないが、「環境条件の変化によって、絶滅が危惧される種に移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとして、状況を判定するに足る情報が得られていない種である」という専門家の指摘により重要な種とした。

ii) 生態

本種は、北海道、本州、四国、九州に分布する⁴⁰⁾。佐賀県内では、鳥栖市、三養基部、佐賀郡、佐賀市、神埼郡、小城郡、藤津郡、東松浦郡¹⁴⁾における記録がある。

成虫は陽当りのよい樹林周辺、溪流、池畔の草地に好んで生息し、飛翔は敏速⁴⁰⁾である。ウツボグサ、アザミ類等の花に飛来し、時に湿地にも止まる⁴⁰⁾。幼虫の食草はチヂミザサ、ヤマカモジグサ、ミヤマシラスゲ等が報告されている⁴⁰⁾。他に多くのイネ科、カヤツリグサ科が食草となるものと思われる⁴⁰⁾。通常年 2 回(5 月中旬～6 月中旬、8 月上旬～9 月上旬)出現する⁴⁰⁾。越冬態は幼虫⁴⁰⁾である。

iii) 調査結果

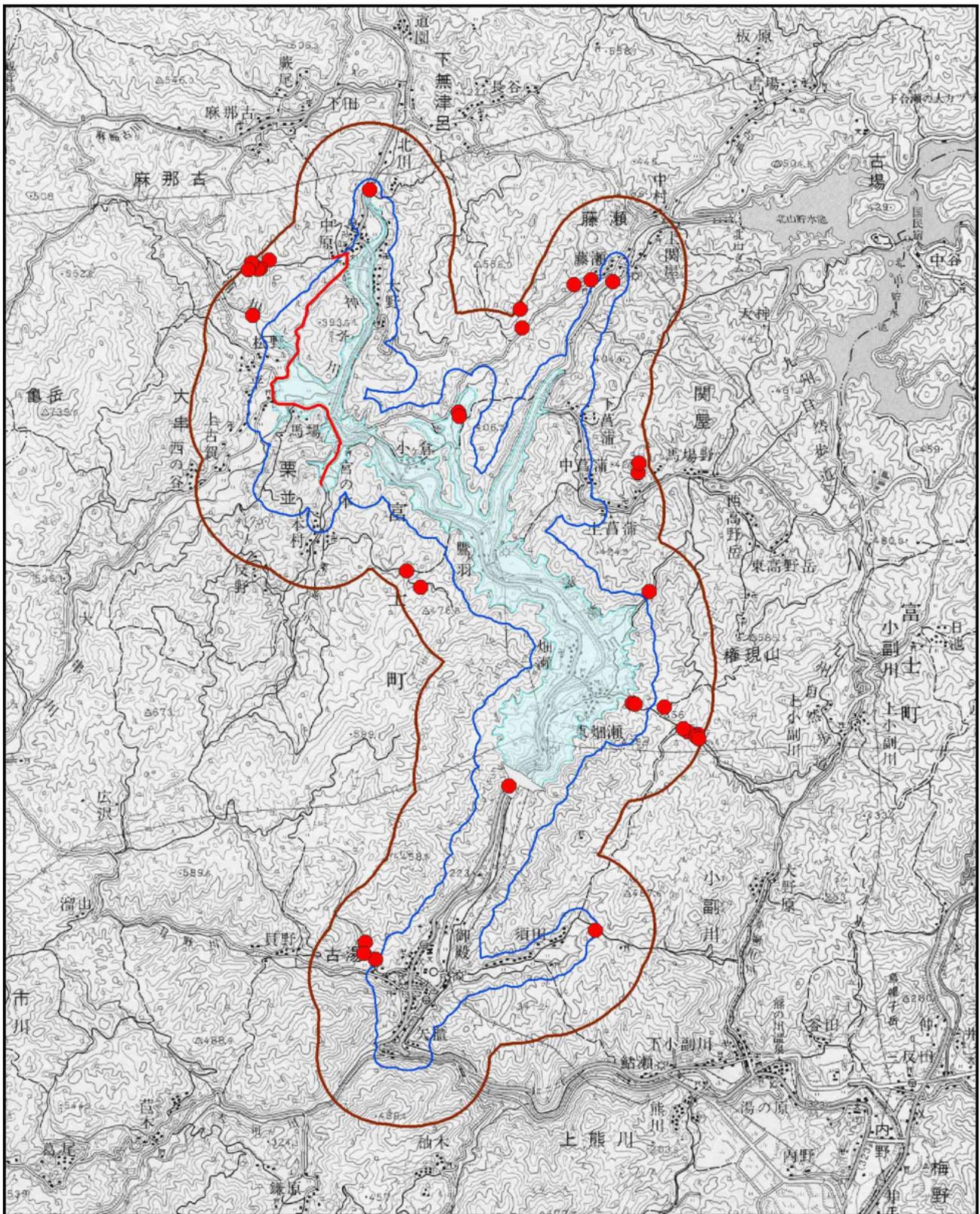
調査による確認地点を図 4.1.5-7(9)に示す。

本種は、平成 13 年度～15 年度の調査において、中原地区の中原集落から蒲川に続く林道沿い 5 地点、藤瀬地区の藤瀬集落西の谷戸 2 地点及び南西の山間部 2 地点、大野地区の音無周辺 2 地点、関屋地区の上菖蒲集落周辺 2 地点、東畑瀬集落北の沢上流部 1 地点及び南東の林道沿い 8 地点、栗並地区の鷹ノ羽集落南西の山間部 2 地点、古湯地区の淀姫神社北の谷沿い 3 地点、小副川地区の

須田集落周辺 1 地点、嘉瀬川の新小関橋下流 1 地点、川上川第二ダム下流 1 地点、神水川の北川橋上流 1 地点、浦川の松野集落北側周辺 1 地点、合計 32 地点で生息が確認された。また、詳細な位置情報等の記録がないが、平成 6 年度に中原地区から栗並地区までの経路上において確認された記録がある。

確認地点の環境は、沢沿いの林縁や草地であり、東畑瀬集落南東の林道沿いでは多数の個体が確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、主に沢沿いや林縁部の草地に生息し、当該地域に広く分布していると考えられる。



凡 例

-  : ダム堤体
-  : 副ダム
-  : 貯水予定区域
-  : 対象事業実施区域
-  : 調査地域

 } 確認地点



1:50,000

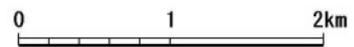


図4.1.5-7(9)
ヒメキマダラセセリ確認地点

*: この経路内で確認した記録がある。

e-11) クロシジミ

i) 重要性

本種は、「環境庁報道発表資料 無脊椎動物(昆虫類、貝類、クモ類、甲殻類等)のレッドリストの見直しについて(環境庁 平成 12 年 4 月)」⁵⁾に絶滅危惧Ⅰ類、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に準絶滅危惧種として掲載されている。

また、本種は、専門家により「県内で希少」と指摘されている。

ii) 生態

本種は、本州、四国、九州に分布する⁴⁰⁾。佐賀県内では、鳥栖市、佐賀郡、佐賀市、神埼郡、小城郡、唐津市、東松浦郡¹⁴⁾、鳥栖市河内、東松浦郡浜玉町鳥巢、佐賀郡富士町、東松浦郡厳木町作礼山等⁶⁾における記録がある。

成虫はカシワの疎林、クヌギ、コナラ、アベマキ等がまばらに自生する林に多く生息する⁴⁰⁾。地域によっては食餌の関係からアキグミやマツの生える草原や河原にも生息する⁴⁰⁾。雄は夕方に梢上を活発に飛ぶが、雌は不活発⁴⁰⁾である。時に草木の花で吸蜜することがある⁴⁰⁾。孵化した幼虫はアブラムシやキジラミの分泌物をなめ、時にブナ科等の葉も食べる⁴⁰⁾。出現は年 1 回⁴⁰⁾で、6月中旬～7月下旬に姿を見せる⁴⁰⁾。7月下旬～8月、3 齢になってクロオオアリにくわえられてアリの巣にはいる⁴⁰⁾。越冬態は 4 齢または 5 齢といわれ、翌年初夏、巢中で蛹化し、地上にはい出て羽化する⁴⁰⁾。雌はコナラ、クヌギその他の樹木(主としてブナ科)の小枝や葉に数卵を産付、その産卵場所はアブラムシの寄生した付近が選ばれる³⁹⁾。

iii) 調査結果

本種は、平成 12 年度の環境巡視において、22 個体の成虫と、周辺のクリ及びアレチマツヨイグサに産着された多数の卵が確認された。確認地点付近では工事が計画されており、生息地が改変される予定であった。このため、工事計

画を変更して生息地の改変を回避するとともに、産卵木を植栽して再生産の場を整備する保全措置を実施した。また、平成 13 年度～15 年度に本保全区域における生息状況の監視を実施しており、成虫、幼虫及び卵が確認された。

この他、平成 15 年度の調査において、保全区域以外の 2 地点で成虫が 2 個体確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、クロオオアリの巣と産卵木(クリ等)の存在が再生産の要件と考えられ、これらの要件が整った環境に局地的に生息すると考えられる。

なお、確認位置については、重要な種の保全の観点から示していない。

e-12) オオウラギンスジヒョウモン

i) 重要性

本種は、「環境庁報道発表資料 無脊椎動物(昆虫類、貝類、クモ類、甲殻類等)のレッドリストの見直しについて(環境庁 平成 12 年 4 月)」⁵⁾や「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に掲載されていないが、福岡県、長崎県、宮崎県等近隣の諸県でもレッドデータブックに掲載されており、また、「衰亡傾向にある」という専門家の指摘により重要な種とした。

ii) 生態

本種は北海道、本州、四国、九州に分布する⁴⁰⁾。佐賀県内では、鳥栖市、佐賀郡、佐賀市、神埼郡、小城郡、唐津市、東松浦郡、伊万里市¹⁴⁾における記録がある。

成虫は陽当りのよい草原や樹林周辺の草地に多く生息し、活発に飛翔してオカトラノオ、アザミ類、ノリウツギ、ミヤマイボタ等多くの花で吸蜜し、雄は崖等の湧水地で吸水することもある⁴⁰⁾。寒冷地に多く、暖地では一般に少なく山地性のものであるが、稀に平地から丘陵地にも見られる³⁹⁾。幼虫の食草はスミレ科の各種スミレ類⁴⁰⁾である。年 1 回、暖地では 6 月中旬～下旬に姿

を見せる⁴⁰⁾。夏期には一時休眠し、秋に再び出現して産卵する⁴⁰⁾。越冬態は卵⁴⁰⁾である。産卵習性は食草の生ずる付近の他物に乱雑に産付し、直接に食草には産付しない³⁹⁾。

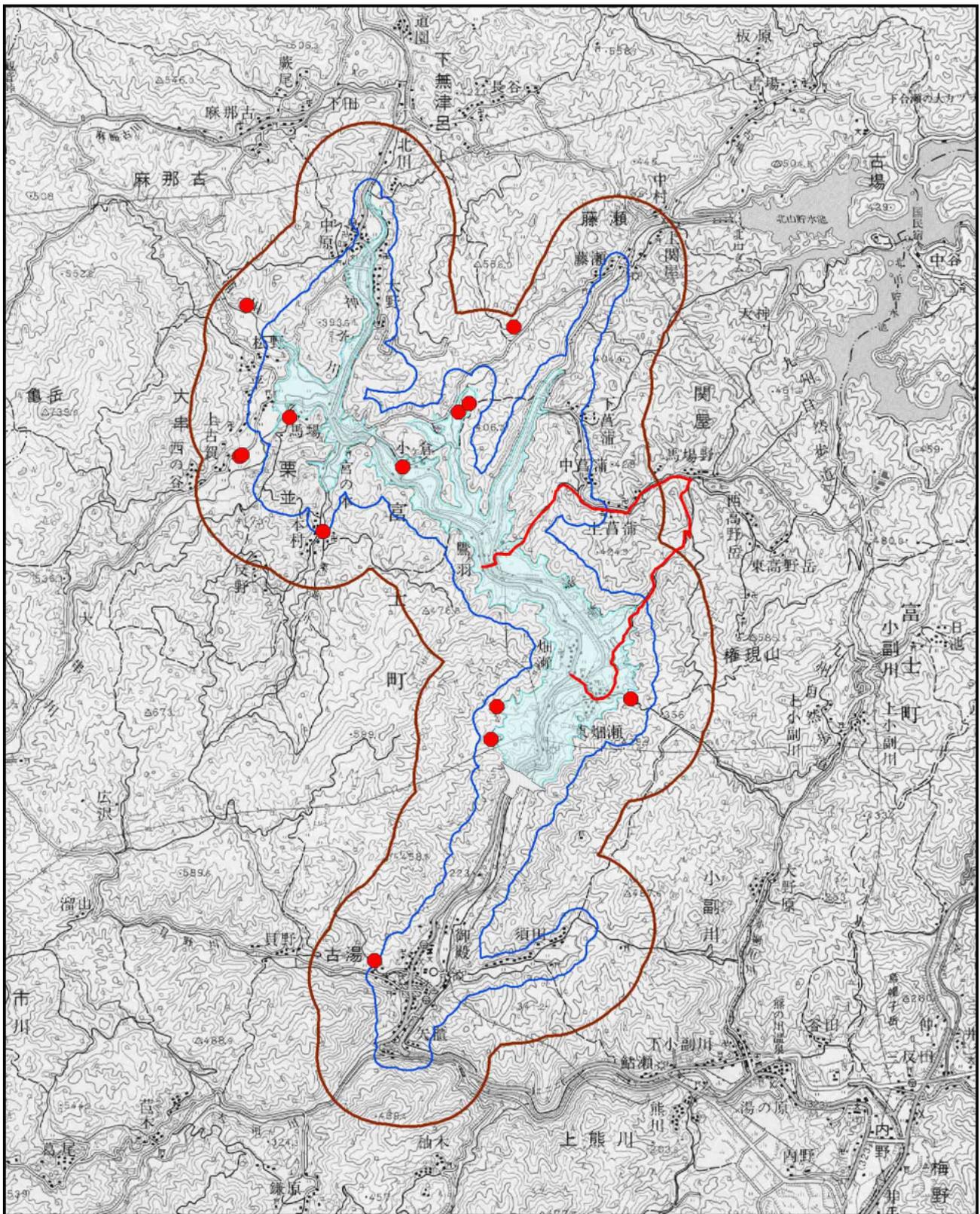
iii) 調査結果

調査による確認地点を図 4.1.5-7(10)に示す。

本種は、平成 13 年度～15 年度の調査において、藤瀬地区の藤瀬集落南西の山間部 1 地点、大串地区の上古賀集落周辺 2 地点、大野地区の音無周辺 2 地点、関屋地区の東畑瀬集落南東の林道沿い 1 地点、古湯地区の淀姫神社北の谷沿い 1 地点、神水川の小ヶ倉橋付近 1 地点、浦川の松野集落北側周辺 1 地点、大串川の馬場集落周辺 1 地点、栗並川の山上第一橋付近 1 地点、合計 11 地点で生息が確認された。また、平成 11 年度及び 15 年度の環境巡視において、畑瀬地区の西畑瀬集落南西の山間部 1 地点、西畑瀬集落南の沢 1 地点、合計 2 地点で確認された記録がある。このほか、詳細な位置情報等の記録がないが、平成 6 年度に鷹ノ羽から馬場野を經由し、畑瀬に至る経路において、馬場野周辺で確認された記録がある。

確認地点の環境は、放棄水田、林縁等であり、成虫が 1 個体散発的に確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、主に明るい樹林、耕作地及び草地に生息すると考えられる。



凡 例

-  : ダム堤体
-  : 副ダム
-  : 貯水予定区域
-  : 対象事業実施区域
-  : 調査地域

  } : 確認地点



1:50,000

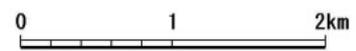


図4.1.5-7(10)
オオウラギンスジヒョウモン
確認地点

*: この経路内で確認した記録がある。

e-13) オナガアゲハ

i) 重要性

本種は、「環境庁報道発表資料 無脊椎動物(昆虫類、貝類、クモ類、甲殻類等)のレッドリストの見直しについて(環境庁 平成 12 年 4 月)」⁵⁾や「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に掲載されていないが、「環境条件の変化によって、絶滅が危惧される種に移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとして、状況を判定するに足る情報が得られていない種である」という専門家の指摘により重要な種とした。

ii) 生態

本種は、北海道、本州、四国、九州に分布する⁴⁰⁾。暖地では山地性の傾向を示し、平地で見かけることはまれである⁴⁰⁾。佐賀県内では、脊振山系や多良山系と県内中央部の山地、鳥栖市、佐賀郡、佐賀市、神埼郡、小城郡、鹿島市、唐津市、東松浦郡¹⁴⁾における記録がある。

成虫は暖地では平地よりも低山地の溪流沿いや樹林の周辺に好んで生活⁴⁰⁾する。ヤマツツジ、クサギ、ヤマユリ等の花でよく吸蜜し、湿地に集まって吸水するものも見られる⁴⁰⁾。幼虫の食草はミカン科のコクサギが主⁴⁰⁾であるが、そのほかカラタチ、サンショウ及びカラスザンショウも食べる⁴⁰⁾。年 2 回の発生⁴⁰⁾で、4 月下旬より姿を見せる⁴⁰⁾。年によっては 9 月中、下旬に第 3 回目の発生と思われる個体が採集されることがある⁴⁰⁾。蛹で越冬⁴⁰⁾する。

iii) 調査結果

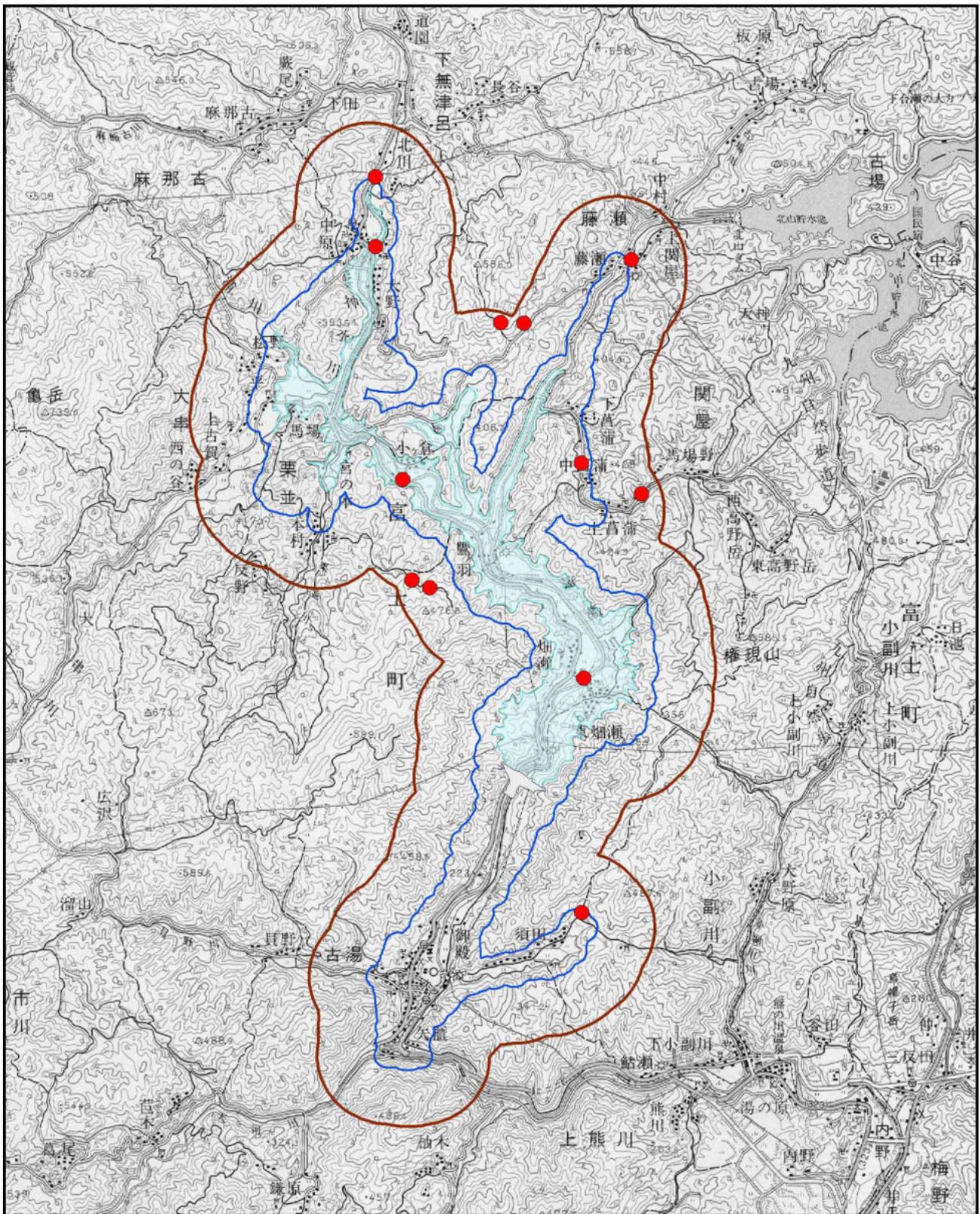
調査による確認地点を図 4.1.5-7(11)に示す。

本種は、平成 14 年度及び 15 年度の調査において、藤瀬地区の藤瀬集落南西の山間部 2 地点、関屋地区の中菖蒲集落周辺 1 地点、上菖蒲集落周辺 1 地点、栗並地区の鷹ノ羽集落南西の山間部 2 地点、小副川地区の須田集落東の砂防ダム周辺 1 地点、嘉瀬川の新小関橋上流 1 地点、畑瀬橋付近 1 地点、神水川の北

川橋上流 1 地点、小ヶ倉橋付近 1 地点、合計 11 地点で生息が確認された。また、平成 12 年度の環境巡視において、神水川の中原橋付近 1 地点で確認された記録がある。このほか、詳細な位置情報等の記録がないが、昭和 61 年度、平成 6 年度に嘉瀬川沿い及び神水川沿い等の経路上において確認された記録がある。

確認地点の環境は、スギ植林の林縁、沢沿い等であり、1 個体ずつ散発的に確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、主に嘉瀬川の上流部及び支川沿いの樹林に生息すると考えられる。



凡 例

-  : ダム堤体
-  : 副ダム
-  : 貯水予定区域
-  : 対象事業実施区域
-  : 調査地域
-  : 確認地点



1:50,000

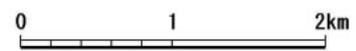


図4.1.5-7(11)
オナガアゲハ確認地点

e-14) ウラナミジャノメ

i) 重要性

本種は、「環境庁報道発表資料 無脊椎動物(昆虫類、貝類、クモ類、甲殻類等)のレッドリストの見直しについて(環境庁 平成 12 年 4 月)」⁵⁾に絶滅危惧 II 類として掲載されている。

ii) 生態

本種は、本州、四国、九州、対馬に分布する³⁹⁾。佐賀県内では、鳥栖市、三養基郡、佐賀郡、佐賀市、神埼郡、小城郡、多久市、武雄市、杵島郡、西松浦郡、藤津郡、鹿島市、唐津市、東松浦郡、伊万里市、向島、馬渡島、松島、加唐島、小川島、神集島、高島¹⁴⁾における記録がある。

本種の越冬態は幼虫³⁹⁾である。暖地では年 2 回(6 月～7 月、8 月～9 月)発生する³⁹⁾。成虫は明るい疎林や路傍、乾性草原に多く、飛翔は緩やかでオカトラノオ等の花に飛来することもある⁴⁰⁾。幼虫の食草はメヒシバ、チヂミザサ、アシボソ等³⁹⁾である。

iii) 調査結果

本種については、詳細な位置情報等の記録がないが、平成 8 年度夏季の環境巡視において、西畑瀬周辺で数個体が確認された記録がある。

生態情報から、本種は、主に乾性草地に生息すると考えられる。

e-15) エゾヨツメ

i) 重要性

本種は、「環境庁報道発表資料 無脊椎動物(昆虫類、貝類、クモ類、甲殻類等)のレッドリストの見直しについて(環境庁 平成 12 年 4 月)」⁵⁾や「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に掲載されていないが、「環境条件の変化によって、絶滅が危惧される種に移行し得る属性を有しているが、生息状況

をはじめとして、状況を判定するに足る情報が得られていない種である」という専門家の指摘により重要な種とした。

ii) 生態

本種は、本州、四国、九州に分布する⁴²⁾。佐賀県内では、脊振山地、多良火山地¹⁴⁾における記録がある。

山地や冷温帯落葉樹林に見られる⁴³⁾。九州では一般に500m以上の山地でないと見られない⁴³⁾。幼虫の食草はカバノキ、ハンノキ、ブナ、クリ、コナラ及びカシワ⁴²⁾である。

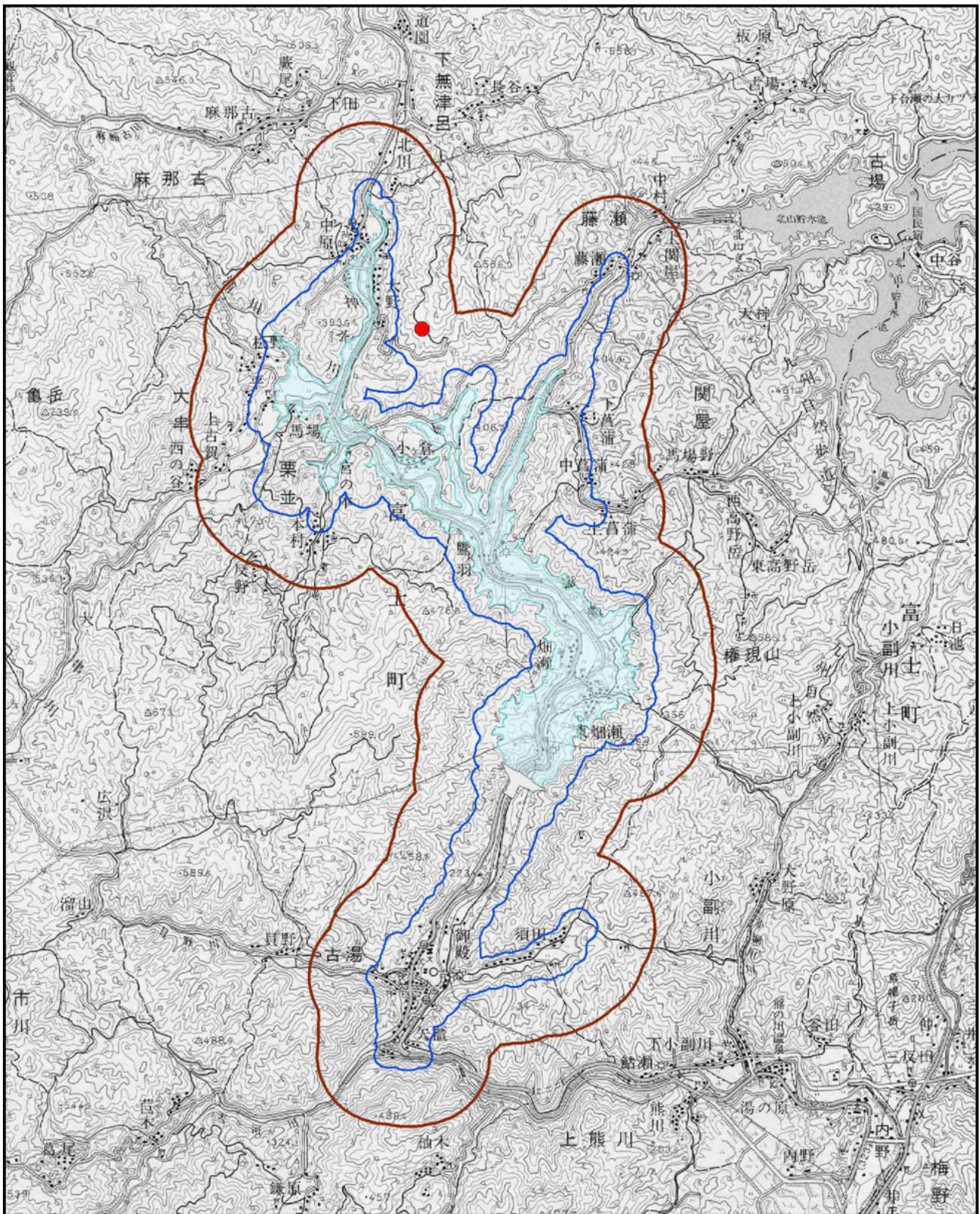
iii) 調査結果

調査による確認地点を図4.1.5-7(12)に示す。

本種は、平成6年度の調査において、大野地区の大野集落東の山間部1地点で、ライトトラップにより生息が確認された。

確認された環境は、落葉広葉樹林と背の低い草原が混在する場所であるが、ライトトラップによる確認であり、周辺の生息環境から飛来した可能性がある。また、専門家から、本種は九州において標高500m以上の山地帯でよく見られるが、コナラ等の落葉樹が広く分布し、周りに高い山がある地域では、かなり低い標高でもみられるという情報を得た。

これらのことから、本種は、当該地域において落葉広葉樹林に生息すると考えられる。



凡 例

-  : ダム堤体
-  : 副ダム
-  : 貯水予定区域
-  : 対象事業実施区域
-  : 調査地域
-  : 確認地点



1:50,000

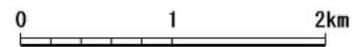


図4.1.5-7(12)
エゾヨツメ確認地点